

エントリー団体 No.3

福井県立大野高等学校

チーム「結」

DDD ~大高ダイバーシティ化改革~



校則の服装規定から男女の区別を撤廃。I型かII型を選べるように



FUKUI SDGs AWARDS 2021
最終審査会で「鯖江市賞」を受賞



総合的な学習の探究ポスターセッションで
LGBTQ+を知ってもらい理解を求める

活動期間

2021年4月～(年35回ほど活動) 3年間継続予定

構成人数

高校生13名・大人1名

SDGsテーマ



推薦メッセージ

チーム「結」は熱心に課外活動、生徒会活動に取り組んでいる団体です。ご高配いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

福井県立大野高等学校 校長 真鍋 濟希

活動内容

チーム「結」は生徒会執行部員とボランティア同好会から成り、「生徒一人ひとりが過ごしやすい学校づくり」と「未来の地球を守ろう～地域と国際社会への貢献」を目標に、Respect for All「全ての人・モノへの尊重」の精神で活動している。

「ジェンダーギャップ、人や国のギャップ解消～誰もが尊重される学校」を目指して生徒たちの声を集め、校則や校内ルールの見直しを行っている。

本校は117年前の創立より昨年度まで「男女別名簿」を使用し「校則で服装や頭髪規定が男女別に定められている」ことから、「性別によらない名簿の使用」や「制服ジェンダーレス化」を目指して生徒会が活動し始めた。ここ数年間でSDGs達成のための探究活動を行っており、ジェンダーや国籍・人種の平等をテーマにする生徒も多い。

「まず学校の仕組みを変えて、人の平等を」目指し、具体的には「性別によらない名簿の使用」と「制服ジェンダーレス化」を進めるべきだ、との声が高まってきた。

生徒会執行部で生徒の意見を集約し、昨年度9月の生徒議会で「大野高校は伝統校だが、変わる必要がある」と具体的な政策を提案した。

「性別によらない名簿の導入」「女子用スラックスの導



2021年度までの出席番号。男女別名簿を使用していたため、性別によらない名簿への変更を求めて視覚化

「校則から『男子』『女子』という制約をなくす」を重点項目に挙げ、生徒議会や生徒会執行部会で議論した。

校則をどのように見直していくか、生徒会アンケートをし、生徒会と先生方で何度も

話し合いを行った。生徒会長が校長に「要望書」を提出するとともに生徒会執行部員が検討を依頼した。

要望書について、職員会議で同意が得られ、まず「女子生徒の制服にスラックスを選べる」ようになった。制服業者との打ち合わせを経て、12月に購入希望生徒の採寸が始まった。校則の服装規定の改正についても認められ、2022年度4月発行の生徒手帳から『男子』『女子』という言葉を削除した。具体的には「学生服をⅠ型、ブレザーをⅡ型」とし、性別に関わらずどの制服も選べるようになった。他にも通学靴の色やコート丈についての規定、「肌色のストッキング」等の表現を見直し、「ベージュ系の…」など、多様性を尊重し時代に合った校則に改訂している。

2022年度からは「性別によらない五十音順の生徒名簿」の使用が始まった。現在も制服をより着心地を良くするためマイナーチェンジや頭髪規定の改定に向け取り組んでいる。

01. 活動をはじめたきっかけ

様々なギャップ解消のために、 まずここから、学校から変えよう

総合的な学習での SDGs 探究やルールメイカー育成プロジェクトをきっかけに生徒会でルール見直しが活発に行われるようになった。校則が時代に合わなくなっているため「誰もが過ごしやすい学校にしよう」との声が高まった。ジェンダー問題を探究する生徒が多く、「LGBTQ+」「同性婚承認を」「男女別姓を」など様々な課題を Ally として解決しようとしている。

2021年6月の文科省の「絶えず校則を見直すべき」との提言にも勇気づけられ、「様々なギャップ解消のために、まずここから、学校から変えよう」という方針を生徒会が打ち出した。学校祭企画の1つ「営火祭メッセージ」に「自分はトランスジェンダーで、体と心の性がちがう。校則・校内ルールから男女の区別をなくしてほしい」と主張する投書があった。

これを読み上げた生徒会執行部が動き始めた。次期の役員選挙の立候補者の公約にも「ジェンダーギャップ解消」が多く聞かれた。

02. 活動から学んだこと・感じたこと

“Respect for ALL” の精神を受け継ぎ、若い視点から「今できること」を考える

コロナ禍で他県への往来などが制限されてきたが、この際、自分たちの学校生活について足下から見直し身近な課題を掘り下げることができた。

一人一台のパソコンが支給されたことにより、他校や世界の状況について調べ、アンケートを集約することがより簡単にできるようになった。交流先の「東ティモール」では国会議員の4割が女性であるなど、政治意識の違いも学べた。

「『第一次』大高ダイバーシティ化改革」では、まず名簿や制服などの見直しを行ったが、現在も「制服をより着心地よく」「頭髪規定の見直し」など、後輩が『第二次』改革に発展させている。全ての要望が実現したわけではないが、多くの先生方が協力的だった。

“Respect for All” 「全ての人への尊重～大野から持続可能な未来へ繋げてゆく」という先輩の精神を受け継ぐとともに、頭を柔らかく、若い視点から「今できること」を考え、今後も実践したい。

03. 継続するためのこれからの工夫

視点を換えいろいろな角度から討論。
問題を見える化し、今後の活動へ繋げる

「ブレザー制服にスラックス」を実現するために「女子のズボンを取り戻せプロジェクト」を行った。60年前、祖父母の世代の本校女子は冬期、防寒のためスラックスを着用していたため、当時の白黒写真などを提供してもらい、インタビューを行い要望書に取り入れた。

「制服ジェンダーレス化」を達成するため全国や他校、世界の状況を聞いたり調べた。ディベート大会のメンバー生徒が、「女子生徒の制服としてスラックスを導入すべき」を練習用の論題として取り上げ、視点を換えいろいろな角度から討論した。肯定側が圧倒的に有利な論題（否定側が論理的な理由を述べにくいもの）だとわかり、今後の活動に希望が見えた。

「性別によらない名簿」についても他校の状況を調べ、2021年まで使用されていた「男女別名簿」について、出席番号を書いたカードを掲げた生徒らの写真を撮り、男子が優先され女子は待つという現状の「問題を見える化」するなど工夫した。

活動の略歴

- 2021年6月 青少年健全育成大野市民大会参加
- 2021年8月 令和3年大雨災害義援金運動
- 2021年9月 学校祭 生徒会企画「営火祭メッセージ」
- 2021年9月 生徒会役員改選 生徒議会にて校則・校内ルール改正案
- 2021年10月 生徒会執行部員が校長、事務長、教務部長、保健部長へ要望書を提出
- 2021年12月 職員会議で服装規定改正決定
- 2021年12月 購買部でII型制服（ブレザー）用の紺色スラックス制服販売開始
- 2022年1月 職員会議にて4月より全校で「性別によらない名簿」を使用することが決定
- 2022年1月 FUKUI SDGs AWARDS 2021 最終審査会 鯖江市賞
- 2022年2月 高校生ルールメイカー オンライン交流会
- 2022年3月 生徒会役員改選 新入学生へ制服をI型・II型とし販売開始
- 2022年4月 新生徒手帳発行（服装規定に男女の区別無し）「性別によらない名簿」使用開始
- 2022年4月 生徒会執行部で制服のマイナーチェンジについて議論開始
- 2022年6月 生徒会執行部でブレザー制服について、意見をまとめる
機能性を高める ブラウス生地、肩パッド、スカートのプリーツの変更
- 2022年7月 生徒会執行部と教員、制服業者で意見交換会を実施
- 2022年8月 制服業者へ要望を依頼
- 2022年9月 生徒会役員改選 生徒議会にて頭髪規定改正案
- 2022年12月 頭髪規定への要望書提出
- 2023年1月 新规定（頭髪にツーブロック、編み込み可とする）試行期間実施